

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2371301249
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社
事業所名	守山ケアハートガーデン グループホームつづみの丘
訪問調査日	平成20年1月11日
評価確定日	平成20年2月22日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2371301249		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	守山ケアアートガーデン グループホームつづみの丘		
所在地	名古屋市守山区百合が丘3005番地 (電話) 052-739-2017		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年1月11日	評価確定日	平成20年2月22日

【情報提供票より】(平成19年12月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 18年3月16日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	20 人 常勤 14人, 非常勤 6人, 常勤換算 7.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	180 円	昼食	330 円
	夕食	480 円	おやつ	円
	または1日当たり	1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成19年12月25日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	2名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	69 歳	最高	87 歳
協力医療機関名	旭労災病院・名古屋徳洲会総合病院・愛知クリニック・前川歯科				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは新興住宅街にあり、居室からは近くの公園が見渡せ入居者が散歩するにもいい場所である。家族の訪問は多く、入居者や職員との関わりが多い。職員を育てる取り組みも積極的で、正職員、パート職員関係なく研修のテーマに沿って職員に参加を勧めており、職員も学ぶことに意欲を持って取り組んでいる。入居者の自己決定を大切に、自立に向けた支援が徹底されている。各自に入浴用の飾りのれんががあり、入浴日には各居室のドアにかけ入浴を楽しむよう心がけている。普段より職員間のコミュニケーションを大切に、様々な困難も一緒に乗り越えている。職員と入居者がお互いに信頼関係にあることを職員は誇りにしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	普通の生活を守り在宅に近づきたいとの思いから、金銭管理は買い物時、職員が見守りながら、入居者本人に支払ってもらうよう支援している。どんな評価でも前向きに受け止め、職員とも話し合い改善に向け取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価を全員で取り組んだ。気付かなかったことを客観的、冷静に見直す機会となり、食事前や外出後の手洗い、うがいを徹底するようカンファレンスで話し合った。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	活動状況報告として、行事や職員セミナー研修、入居者の状況などを報告している。ノロウイルスの対策についての報告や家族からは電話システム交換について意見があがった。処方センター受付薬局に変更したことで、対応や薬剤価格の点について家族から賛成を得ている。母体である三菱電機労働組合主催の従業員向け研修会にホームのPRを実施した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会は多く、毎日訪問される方もある。その折に表情を見て家族の要望や意見を引き出し、苦情対応記録に記入し、運営者やホーム管理者で話し合い、迅速な対応に心がけている。カンファレンスで職員に周知させ、再発防止に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域住民の一員として自治会に加入し、ゴミ当番や草刈りに参加して地域との関わりに努めている。散歩時にビニール袋を持ってゴミ拾いもしている。地元の夏祭、盆踊りに参加したり、文化祭に入居者の作品を出展している。地元の学校や幼稚園との交流をしており、こども110番にもなっている。クリスマス会などイベント時には地域の人達に呼びかけている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に開かれたホームを目指しコミュニケーションを大事にして運営に当たっている。入居者、家族が関わっている地域住民と良好なコミュニケーションをとり、皆が楽しく関わり温かい気分になれる信頼関係を築いていこうとして理念はつくられた。隠すことのない開かれた誰でも来やすいホームにしようと思がけている。		地域住民とコミュニケーションをとって信頼関係を築いていこうとしてつくられた理念であるが、理念の中にも地域との関係性を表現されることが期待される。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや折りにふれ、管理者が理念について話し、職員は常に理念を頭に置き、明るい気持ちで対応しようと思がけている。困難な問題は理念に立ち返り判断している。入居者が不穏になった時は、入居者の安心した笑顔がどうしたら見られるかを考え、まず優しい気持ちになり対応している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ゴミ当番をしたり、1月、7月の大掃除には出られる入居者は草刈に参加している。地域の安全のためにこども110番をしており、子ども達が駐車場にあそびに来るようになった。守山区の社会福祉協議会の夏祭や入居者作品展にも参加している。今年から年4回程、新聞を発行し、これを機会にホームの様子を伝えていきたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	カンファレンスで外部評価の意義を話し合い、全員で取り組んでいる。前回では気づかない点を教えてもらい改善に取り組んだ。金銭管理では、ホームは家の延長と考え生活を守るため、買い物に行く時も在宅に近づくよう、自分で管理できない人にも小額ずつ持ってもらい、職員の見守りの中、支払いをしていただいている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では、ホームの活動や入居者の状況についてや行事、職員セミナー研修などの参加報告をしている。また、電話システムの交換について、ノロウイルス対策など運営状況などの報告を行った。入居者の家族からは評価、要望、助言を受け今後の対応に活かすよう取り組んでいる。ホームの様子を見てもらうために会議だけでなく、イベント時などに来訪してもらえらる機会も作っている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村へは担当者がホームの実情、ケアの取り組みなど事業所の報告や連絡、相談を密に行っている。市主催の各種セミナーは職員の参加を奨励している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪が多く、その折に入居者の健康状態や暮らしぶりについて話している。また、体調などに変化があった時は状態を説明し、受診結果も報告している。預かり金と使用代金のレシートを確認し、残高照合し確認のサインをもらっている。毎月発行する「たより」には、入居者の行楽やホームでの楽しそうな様子が写真入りで伝えられている。職員の異動がある場合にも「たより」で報告している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームへの遠慮からか意見はあまり出ないが、来訪時に家族の様子でとらえ、聞き出している。内容によっては運営者、管理部門で審議し、迅速な対応を心がけている。苦情対応記録に記入し職員に周知させて、再発防止に努めている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>病気や処遇問題で辞める以外はできるだけ改善して離職を抑えるよう努めている。家庭の事情により辞めた人が再び職場に復帰した例もあり、管理者や入居者は大変喜んでいる。新たに入った職員はリーダーについて学び、リーダーは責任を持って指導に当たっている。他の介護施設とも横のつながりを持ち、離職問題についても話し合っている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームに外部から講師を招いて研修をしたり、外部の研修にはテーマに応じて職員が順番に参加するよう取り組んでいる。正職員、パート職員に関係なく学ぶ機会を作っている。学んだことはレポートを作成し職員はそれを学び共有している。また、管理者も法人内のグループホームの研修に参加した時には、カンファレンスで内容を職員に報告している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加入しており、同業者と交流する機会をもっている。また、他の施設の勉強会にも参加の機会をつくり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、3泊4日の体験入居を設けている。また、デイサービスの体験、ホーム見学、事前面談などでホームに慣れていただくよう努めている。職員は事前面談記録や家族記入のアセスメントシートで本人の理解を得るようにしている。入居者が落ち着くまで家族に協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしなが喜び哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の話しを傾聴することに心がけ、思っていることややりたいことを支援している。調理や編み物、書道を楽しむ入居者がいて、掲示された作品を皆が楽しんでいる。職員は入居者から昔の慣わしや知恵を教えてもらうことがある。また、職員の状況を見て、優しさや労いの言葉をかけてもらうこともよくあり、この時は入居者と職員という関係ではなく、ホッとされる頼れる仲間になる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の思いを大事に支援しているが、思いが把握できない時は言動の一つひとつ関心をよせ、思いを理解するよう努めている。家族から聞いた生活歴を活かすよう本人の視点で対応している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は入居者担当職員の意見、気づきを元にケアカンファレンスで話し合わせ、計画作成担当者が作成している。また、困っていることをどのようにしたらよいかなど皆で話し合っている。職員は皆、積極的に意見を出し合っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>原則的には月1回のカンファレンスに各担当が入居者の情報をもちより話し合いの中で確認し、介護計画の継続や決定をしている。毎月の会議で見直しが必要とされれば介護計画の追加、変更を行っている。通常は3カ月毎に見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームで生活することになった本人や家族にとって事業所としては、住む所が違っただけとの姿勢で本人と家族の暮らしを守ることを目指している。その結果、家族の協力、主治医、看護師の協力を得て深夜の看取りを経験することになり、できる限りの対応をしている。</p>		<p>さらに、地域へ認知症が正しく理解されるよう話しをする機会を設けていくことが期待される。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には、入居者と家族の同意のもとに協力医療機関の医師がかかりつけ医としている。家族が希望する場合は、協力医療機関以外への通院を対応している。また、家族の方から協力医療機関の医師を主治医に変更したいと希望される場合もある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居者と家族を守る介護を目指しており、入居者へのケアについて職員と家族とでズレが生じないように連絡を密にとっている。医療機関、家族、職員間で病状の説明や介護について話し合い、入居者本人や、家族の思いを受け止めるよう努めている。緊急時の対応はマニュアルに従って行うことにしているが、職員は各々心肺蘇生法の専門指導を受け資格をもっている。</p>		<p>一人ひとり状況が大きく違うため、すべてのケースに対応する方針を定めるのは容易ではないと考えられるが、個々のケースにおいて最善を尽くせるよう体制（ネットワーク）づくりを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>親しみの中に礼儀を心得た言葉かけや心遣いを行い、常に理念に沿っているかを行動の前に意識するよう心がけている。排泄介助、入浴介助時の言葉かけなど職員同士で共有し実施している。記録の保管は引き出しの中で外から目につかない場所に保管場所を統一している。カンファレンスの際は、入居者の氏名をイニシャルで呼びプライバシーの確保に留意している。居室前の名札は本人の意向を確認し、許可を得て取り付けている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「何がしたい」「どこかに行きたい」など希望があり、予定の変更や見直しをしながら、入居者のペースに沿って職員は見守り、入居者が主人公となって暮らせるよう心がけている。訪問時には、入居者の表情は明るく、笑顔で調査員に話しかけてくれたり、入居してから覚えた編み物を仕上げ、次の新しいものを仕上げることを心から嬉しそうに話してくれた。また、職員が優しくとても気に入っているとの声もあった。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が交代で主に行い、入居者はできることを協力し食卓の準備、後片付けなどに参加している。毎週火曜日は、献立を皆で考えたてており、入居者の楽しみとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しんでもらえるよう、職員は入居者の心を捉え工夫している。入居者の人数分ののれんを作り、居室の入り口にかけ入浴日であることを知らせている。それにより他の入居者にも心理的に影響を与え、スムーズに入浴、清潔保持、信頼関係に役立っている。常に相手を受容していく方法や考え方に職員の工夫や情熱がうかがえる。また、楽しく心地よい入浴ができるよう数種類の入浴剤を用意している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の情報が詳細に記録できるよう様式を工夫し、家族への協力依頼が分かりやすく確実に行われている。生活歴からその人にとって楽しみや役割になるのかを、本人からの聞き取りや職員間で話し合い実践している。日常活動においてはその都度、声かけをすることで役割を担っていただいている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じて散歩の支援をしている。入居者の状況に応じて対応していることから、1日に数回散歩に出ることもある。夏季には、熱中症予防のため早朝に散歩に出ることが望ましいが職員の勤務体制上困難なため、入居者の身体的負担を軽減できるよう、夏季のみ勤務時間を変更することを検討している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き鍵をかけないようにしているが、職員の手薄になる時間を中心に家族の了解のもと施錠することもある。玄関には、人感センサーやチャイムが設置されている。リビングにある洗面台の上に大きな鏡があり、キッチンから入居者の様子が見えるようになっている。徘徊の危険があるので、職員同士でも協力の姿勢は統一されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と共に避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練を行った。熱、湯など少し手を加えれば食事が可能な食料の備蓄、水など2日分程度が備蓄されている。消防署との合同訓練はまだ行っていない。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士により、1日1,500kcalで計算されている。摂取量はケース記録により個別にチェックを行っている。水分について計量は行っていないが、朝、昼、夕食時、10時、15時、入浴後、就寝時とチェックし1日1以上は取れている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居間には入居者、職員手作りの季節感ある物や行事の写真も綺麗に整えられ飾ってある。特に手作りのカレンダーは枠組みと数字も色鮮やかなフェルト地を切り抜き、愛情と根気のいる手作業で職員が作り、マジックテープで取り付けられるよう工夫され、リハビリの一助にもなる。入居者にとってもぬくもりのある作品となっており、見る者の目を楽しませている。室内には明るい日差しが入り、清潔に保たれた空間、職員の明るい対応により入居者をやわらかく包みこんでいる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	約8畳の居室は明るく、思い思い工夫され落ち着ける場所となっている。自立の支援が特に必要な方にはベッドからトイレまで改めて手すりなどを工夫し、自力で移動可能になるよう設備を設けている。植物の好きな人には窓越しに植木鉢を置き花を眺めたり、金魚を飼育している入居者もいる。「もうすぐ水換えね」と職員が声をかけている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。